

【経営指標】

契約総数は、市場ニーズの高い案件に選択・集中し着実に開発を進めた結果、当初予想に近い水準での着地を見込んでおります。一方、Phase 別売上高は、複数の大型プロジェクトの受注遅延により主に Phase 2 及び Phase 3 の売上高が当初予想を下回る見通しとなります。

| | 前回発表予想 (A) | | 今回修正予想 (B) | | 増減 (B-A) | |
|---------|--------------|-------------|--------------|-------------|--------------|-------------|
| | 売上高 (百万円) | 契約総数 (件) | 売上高 (百万円) | 契約総数 (件) | 売上高 (百万円) | 契約総数 (件) |
| Phase 1 | 169 | 29 | 100 | 28 | △68 | △1 |
| Phase 2 | 1,283 | 33 | 881 | 31 | △402 | △2 |
| Phase 3 | 160 | 2 | 10 | 1 | △150 | △1 |
| Phase 4 | — | 0 | 52 | 1 | 52 | 1 |
| その他 | — | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 1,613 | 64 | 1,044 | 62 | △568 | △2 |

【対応策及び成長戦略】

こうした事業環境を踏まえ、当社は、化学産業への依存度の高さ及び大型プロジェクトへの売上集中が業績変動の主因であると認識しております。そのため、顧客基盤と収益源の多様化を経営上の重要課題と位置づけ、あらゆる産業に適用可能なマイクロ波技術ソリューションの活用により、その解決を図ってまいります。

具体的には、経済安全保障の重要性が高まる中、重要鉱物に関連する鉱山プロセス事業の開拓に注力しております。また、昨年9月より開始した低濃度貴金属回収事業をはじめとする新たな技術ソリューションの獲得・提供を通じ、持続的な成長を目指してまいります。

【利益に対する影響】

売上高の減少に対し、営業利益・経常利益・当期純利益の減少は限定的な水準となる見通しです。これは主に、遅延した大型プロジェクトに付随する原材料・設備の調達時期を戦略的に先送りしたこと、及び期中の事業進捗を踏まえ、採用活動を慎重にコントロールしたことによるものです。

(注) 上記予想は、本資料の発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因の変化により、実際の数値は異なる可能性があります。

3. 特別損益の内容

以下の補助金について、交付予定の金額合計 54,613 千円を補助金収入として特別利益に計上いたしました。

| 機関 | テーマ | 金額 |
|------|--|-----------|
| NEDO | マイクロ波プロセスを応用したプラスチックの新規ケミカルリサイクル法の実証開発 | 2,800 千円 |
| NEDO | マイクロ波加熱を利用した革新的ナフサクラッキング技術の開発 | 51,268 千円 |
| AMED | 核酸医薬品の製造・精製・分析基盤技術開発における、原料・原薬の製造基盤技術の開発 | 545 千円 |

また、上記の補助金の交付に伴い、直接減額方式により圧縮記帳する会計処理を適用し、固定資産圧縮損として 32,664 千円を特別損失に計上いたしました。

以上